

「やればできる!？」

～お子さんを上手に褒める二つのポイントと、してはいけない二つのポイント!～

教頭 横堀 壮昭

「やればできる!」というフレーズで知られる芸人さんがいます。「努力すれば何でもできる。だから頑張ろう!」という前向きな励ましの言葉ですね。私自身、この言葉を自分に言い聞かせて成果を出した経験があります。しかし、この言葉が特別な支援を必要とするお子さんには必ずしも当てはまらない場合があります。その理由は、子供たちの障害特性にあります。

特別な支援が必要なお子さんたちは、「できない」「うまくいかない」という経験を多く積んでいます。そのため、新しい課題に直面したときに過去の体験や学んだ知識を応用するのが苦手です。また、失敗した経験を「もう二度とできないこと」と捉え、大きく落ち込んだり、パニックになったりすることもあります。このような特性を持つお子さんたちは、失敗から学ぶことが難しいのです。

では、どのように支援すれば良いのでしょうか?ポイントは「成功体験」から学ぶことです。そして、その成功体験を次に応用できるようにするためには、「褒めること」が重要です。

<お子さんを上手に褒める二つのポイント>

① すぐに褒める

「できた」「うれしい」という感情には「賞味期限」があります。そのため、できるだけ早く、具体的には 60 秒以内に褒めるのが効果的です。時間が経ってからの「さっきの〇〇は良かったね」という褒め言葉は、成功の感覚と褒められた喜びを結び付けにくくなります。もしその場で褒められない場合は、具体的な写真や物を見せながら褒めると良いでしょう。

② 具体的に褒める

漠然と「すごいね」と褒められると嬉しい気持ちは残りますが、何が良かったのかが分からず、次につながりません。「〇〇が上手だったね」「△△の工夫がすごいね」など、具体的に伝えましょう。さらに、「どうしてできたの?」と問い掛けて、お子さん自身が成功の方法を言葉にするのも効果的です。そのプロセスが、自己理解を深め、自信を持つことにつながります。

<褒める際にしてはいけない二つのポイント>

① 他の人と比較して褒める

兄弟や友達と比べて「〇〇より上手だね」と褒めると、喜びを感じる基準は他者で「人よりもできた」「できなかった」ということが判断基準となり、自分の成長を感じにくくなります。過去の自分と比べて「こんなに成長したね」「前よりもできるようになったね」と伝えましょう。

② ご褒美をあげる

「〇点以上取ったらお小遣いをあげる」という約束は、内発的なやる気を損なうリスクがあります。これを「アンダーマイニング効果」と言います。お子さんが頑張ったときは、ご家族と一緒に喜ぶだけで十分です。

いかがでしょうか?普段から実践していることもあれば、「なるほど」と感じたこともあったかもしれません。「上手に褒める」で、今年もお子さんの成長を共に支えていきましょう。



元気に3学期スタート!

～始業式の様子をお伝えします～

小学部 3組

「おそうじ戦隊クリーンジャー」と題して掃除の取組を発表しました。
温かい会場の手拍子を受けながら、ステージ上をピカピカにすることができました!



中学部 3年

3学期にがんばりたいことと、クラスで取り組んでいるダンスを発表しました。
会場みんなと一緒に踊って楽しめる素敵な発表でした!



高等部 1年

3学期の抱負を一言で表し、その言葉に込めた思いを発表しました。
高等部らしい堂々とした姿勢と話し方がさすがでした!

